

山行名		小江戸川越お花見ウォーキング (埼玉県)				
実施日	令和6年3月27日(水) 日帰 公共交通利用					
天候/参加人員	天候:終日快晴、レベル:★ 参加者:申込14名/実施13名(男性3名/女性10名)					
パーティスタッフ	省略					
参加メンバ	省略					
費用	約3,534円(交通費¥3,034(各自PASMO支払)+ 拝観料:各自現金支払¥500)					
3,534円	◆交通費[往路:海老名駅始発/JR川越駅直通特急電車(相鉄本線/JR相鉄直通線/JR埼京線 ¥1665、復路:東武川越駅/武蔵小杉駅乗換/海老名着(東武東上線/東京メトロ副都心線/東急目黒線/相鉄新横浜線)¥1369]計:¥3,034、					
【海老名駅起点】	◆拝観料(喜多院客殿・書院・五百羅漢拝観)¥400+川越城本丸御殿¥100)計:¥500					
歩行/行動時間	歩行時間	休憩時間	行動時間*	・往路アクセス時間(海老名⇒川越) 2:03 ・帰路アクセス時間(川越⇒海老名)1:59 歩行距離:~10km/歩行数:~19,000歩		
ガイドブック	3:00	—	—			
計画	3:00	2:00	5:00			
実行	2:52	3:05	5:57			
実行コースタイム記録						
(集合 7:25)			0:30	0:08	0:07	
相鉄海老名駅== (西谷・羽沢横国大・大崎・大宮経由) == JR川越駅 -- (クレアモール商店街経由) -- 中院 -- 仙波東照宮 --						
7:38			9:41 9:55	10:25 10:40	10:48 10:53	
(拝観/昼食) 0:23	0:05	(拝観)	0:15	0:23	0:05	0:02
-喜多院--三好野神社--川越城本丸御殿--川越氷川神社--(新河岸川桜並木通り)--濯紫公園あづま屋--高沢橋--						
11:00 12:12	12:35 12:45	12:50 13:10	13:25 13:37	14:00 14:13	14:18	
0:05	0:08	0:14	0:27	(乗換)		
菓子屋横丁--元町休憩所--時の鐘--(蔵造通り)--蓮馨寺--(クレアモール)--東武川越駅==武蔵小杉==海老名駅(解散)						
14:20 14:30	14:35 15:50	14:58 15:06	15:20 15:25	15:52 16:08	17:14 17:15	18:07 着
コースの概要、特記事項、反省事項等						
<p>◆実施までの経緯: 花見ウォーキングの適地として、蔵造の町並み・時の鐘や喜多院等の旧跡を訪ね歩く小江戸川越観光として人気のある川越市内を、桜の季節に巡るウォーキングを計画した。東京都心のソメイヨシノの平年開花日は3/24であるが、昨年は10日早い過去最速の3/14開花。温暖化が進む近年では、平年よりかなり早く咲くのが普通。川越の桜は東京都内とほぼ同時期に開花するので、3/27であれば満開の桜に会えるだろうと実施日を設定したが・・・3月に入って寒い日が続き、開花が例年より遅れ、3/27でもソメイヨシノは開花しそうなことがわかった(開花宣言が出されたのは3/29)。実施延期を考えたが、参加メンバの都合が合わず、当初予定の3/27開催を決断した。結果的にこの日は終日好天に恵まれ、早咲きのツバキやエドヒガナの花に出会い、優雅に咲く桜花を愛でながら、小江戸川越の名所旧跡を存分に堪能することができた。また、今回計画のもう一つ目玉として、2019.11に開通した相鉄・JR都心直通線(往路)と2023.3に開通した相鉄・東急都心直通線(復路)を利用して、川越行直通電車に乗車して、約2時間の電車旅の初体験を加えた。</p> <p>◆3/27(水)実施概要: 平日2便運転の相鉄海老名駅7:38発/JR川越行直通特急に乗車。大崎から埼京線を北上し、大宮を経由してJR川越駅までの電車旅。車窓から都心のビル群の後方に姿を見せる純白の富士山、大山から蛭ヶ岳、大岳山から雲取山、武甲山や両神山等々・・・関東平野の西に連なる丹沢・奥多摩・奥武蔵の山並みの大パノラマを堪能できた。</p> <p>川越駅に降り立つと、駅前の大都会の景観に驚かされた。川越市は厚木市の1.5倍35万人の人口を有する埼玉県西部の中核都市なのだから当たり前と改めて実感した。川越駅から北方に位置する小江戸川越の旧市街まで約1.5km続くアーケード商店街「クレアモール」には大型百貨店もあり、大勢の人が行き交う商店街を歩いて、ツバキの名所「中院」に向かった。桜花と旧跡を求めて、仙波東照宮、喜多院、川越城本丸御殿、川越氷川神社、新河岸川桜並木と川越市街を反時計方向に回って、観光客で込み合う小江戸川越旧市街の菓子屋横丁、時の鐘、蓮馨寺等に立ち寄り、土蔵が立ち並ぶ蔵通りを散策しながら川越駅に戻る。約10km/行動時間約6時間/歩行数約1.9万歩のウォーキングを楽しんだ。</p> <p>ソメイヨシノは数輪開花した樹も稀にあったが、開花直前のつぼみのまま。その代わりに、見事に咲き誇る早咲きのツバキとエドヒガナは、中院、仙波東照宮、喜多院、川越城本丸御殿等で存分に鑑賞できた。830年創建天台宗「喜多院」では江戸城から移築した客殿・書院内の3代将軍徳川家光誕生の間や春日局化粧の間、五百羅漢石造群を見学した。続いて一部現存する川越城本丸御殿を見学した。太田道灌父子が最初に築城した川越城の城主は、江戸時代には、武蔵国最大の17万石の大藩となり、代々譜代の松平家等が藩主を勤めた。当時、厚木の愛甲、舟子、長谷、飯山の各村をはじめ、愛甲郡、高座郡、大住郡の一部は、川越藩の所領地であったといい、川越と厚木は江戸時代から深いつながりがあったようだ。</p> <p>蔵造の町中に入ると、平日だというのに、観光客で溢れかえっていた。小江戸川越のシンボル「時の鐘」の鐘の鳴る午後3時に鐘の下に駆け付け、6回突かれる梵鐘の音を鑑賞。参加メンバの約半数が川越初訪問とのことで、初乗車の往復の電車と合わせ、ソメイヨシノの花には出会えなかったが、よい旅ができたことと喜んでいただけた。実施できてよかったと安堵した。</p>						